

特集

婦人科医が知っておくべき がん遺伝子パネル検査の 基礎知識

企画者のことば

織田克利^{*1}，松村謙臣^{*2}

2019年6月に2種類のがん遺伝子パネル検査（OncoGuideTM NCC オンコパネル，FoundationOne[®] CDx がんゲノムプロファイル）が保険適用となり，がんゲノム医療が「日常診療」の1つに位置づけられる時代となってきた。しかしながら，がんゲノム医療の経験はがんゲノム医療中核拠点病院や連携病院などの施設に限られ，さらに，各病院で直接かかわる医師の数はまだまだ少ないのが現状である。がんにおけるゲノム，遺伝子に関する基礎的な知識に加え，遺伝子変異などに基づき治療に結びつける方法，病理検体などの取り扱い，患者へのインフォームド・コンセント，生殖細胞系列のバリエーション（いわゆる二次的所見）の取り扱いなど，知っておくべき事項は少なくない。しかしながら，がんゲノム医療においては，バイオイン

フォマティションをはじめとした様々な専門領域，様々な診療科，様々な職種がかかわることから，婦人科医が自らのレベルに合った内容で系統的に学ぶ機会は少ない点が課題である。

本特集は，これからわが国においてがんゲノム医療が広まっていくことを念頭に，特に婦人科悪性腫瘍領域の診療に従事している医師（およびメディカルスタッフ）を対象に企画した。がん遺伝子パネル検査の理解に加え，遺伝カウンセリングやコンパニオン診断薬（BRCA1/2 遺伝子検査や MSI 検査キットなど）についても理解が深まるよう留意した。本特集によって，がんゲノム医療の現状，薬剤への到達性など今後克服すべき課題の理解が深まり，婦人科がんの診療に役立てていただければ幸甚である。

^{*1}Katsutoshi Oda 東京大学大学院医学系研究科統合ゲノム学分野/同大学医学部附属病院ゲノム診療部

^{*2}Noriomi Matsumura 近畿大学医学部産科婦人科学教室